

事業名 東静岡駅南北自由通路整備事業

〔社会福祉の観点から安全で快適な歩行者空間の創出を図った事業〕

受賞機関 静岡市都市開発部新都市整備課

事業実施期間 平成8年4月23日～平成11年2月26日

事業費 6,297百万円

技術等の特徴と評価

説明会等における地域住民や身障者団体の意見を取り入れ、車椅子使用者の歩行支援施設や音声、点字による視覚障害者案内施設、聴覚障害者用非常時案内施設等を整備し、福祉社会に対応した歩行者空間の創出を行うとともに、人にやさしい歩行者ネットワークの形成をめざしたことが評価できる。

事業の概要と効果

東静岡駅南北自由通路は、地域住民の一般的共同使用に供する歩行者専用通路であるが、JR東静岡駅から通じる玄関口として、また、当地区の街づくりを推進していくうえでの起爆剤、先導的な役割を担う施設としても位置づけられている。

平成10年10月30日にJR東静岡駅の開業とあわせて東静岡駅南北自由通路及び駅前広場等の道路が供用開始され、JR東静岡駅に結節する路線バスが整備される等、新たな交通機能が東静岡地区に整備され、当地区周辺地域を含め、地域住民の利便性の向上が図られた。

一方、東静岡地区の核地域であり、静岡県コンベンションアーツセンターも11月1日に仮オープンされ、本自由通路は当施設への来訪者の貴重な交通手段としても機



動く歩道(感知式で人が通過すると音声による案内がされる)



エスカレーター(安全性に配慮した音声による案内)



エレベータ(2方向開放扉で車椅子使用者に配慮している)

能している。

また、これまで鉄道によって南北に東静岡地区が分断されていた地域住民にとっては、本自由通路が整備されたことにより、当地区の一体化が図られたとともに、当地区の歩行者ネットワーク形成の核として歩行者の回遊性の向上が図られた。

効果として、

①車椅子使用者の歩行支援施設、視覚障害者案内施設、聴覚障害者用非常案内施設を整備し、福祉社会に対応した歩行者案内の創造を図った。

②本自由通路を機能的かつ意匠的に優れたアピール性の高いシンボル施設として整備したことにより、人の交流・賑わいが図られるが、将来的には、JR東静岡駅と静岡県コンベンションアーツセンター、多目的アリーナ等の東静岡地区の核施設及び周辺民間街区との連絡、各施設間の有機的な連携が図られ、機能的な都市活動を支えることができる。

このことは、東静岡地区の民間街区の土地利用転換(工業系から商業業務系へ)の誘導、促進に大きなインパクトを与えるものと思われる。

受賞賛助会員 住友建設㈱静岡支店、東急建設㈱、名工建設㈱